

縄文時代の人々の暮らし

期日：2011年1月17日（月）～2月16日（水） 主催：（財）山形県埋蔵文化財センター
会場：東紅苑1階ホール

縄文時代の食べ物

縄文時代になると、気候が暖かくなり、食料が豊富にとれました。海や川ではシカの^{つの}角や骨でつくった釣り針や^{つ ばり もり}銚、石をおもりにした^{あみ}網などを使って漁をしたり、山では矢の先端に矢じりをつけた弓矢や^{おと}陥し穴を使ってイノシシやシカなどをとったりするようになりました。収穫した木の実を、地面を掘って作った^{ちようせうけつ}貯蔵穴（当時の^{れいせうこ}冷蔵庫）に保管し、必要な時に取り出して食べました。また、木の実を保存食として加工したクッキー状炭化物が、高畠町の^{たかはた おんだし}押出遺跡から出土しています。

土器が作られるようになると、食べ物を煮て調理することができるようになりました。土器の表面には縄をころがしてつけた^{じようもん もんよう}縄文の文様がついているものが多いことから、縄文土器と呼んでいます。縄文土器は時期により形などが異なり、その特徴から、縄文時代を6つ（^{そうそう}草創期・早期・前期・中期・後期・晩期）の時期に区分しています。

^{かいづか}貝塚からは、縄文人が食べた貝がらや魚の骨、動物の骨のほかに、土器の破片やこわれた石器などの道具も見つかっています。



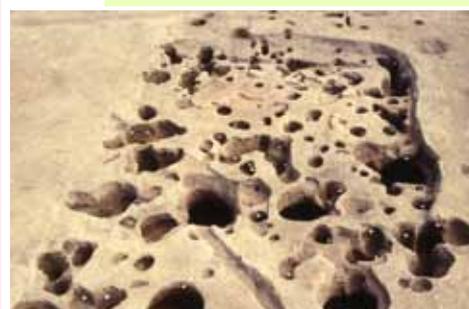
縄文土器 ^{いちののむかいほら} 市野々向原遺跡（小国町）



^{おと} 陥し穴跡 ^{あなあと からさわ} 空沢遺跡（長井市）



^{ろあと} 炉跡 ^{さいかいぶち} 西海淵遺跡（村山市）



^{ちようせうけつ} 貯蔵穴跡 ^{ふくら} 吹浦遺跡（遊佐町）

縄文時代の住居

食べ物が定期的に確保できるようになると、生活が安定し、一定の地域に定住するようになりました。そこで、地面を掘りくぼめ、その上に屋根をかけた^{たてあなじゅうきよ}竪穴住居を建てて住むようになりました。水辺に近い台地や山すそに数軒の家々が集まって生活し、中央に広場があるムラもつくられました。



じゅうきよあと 住居跡
ふくら 吹浦遺跡（遊佐町）



たてあなじゅうきよ
復元した竪穴住居

縄文時代の装飾品



まがたま 勾玉
さくの 作野遺跡（村山市）



くだたま 管玉
さくの 作野遺跡（村山市）

縄文時代の服は発掘されていないので、くわしいことは分かっていませんが、動物の毛皮やアサ・カラムシなどの植物のせんいで編んだ布などを服として利用していたようです。また、^{まがたま くだたま}勾玉や管玉は穴に糸を通して、首飾りや腕飾りとして使われ、マツリなどで^{じゅじゅつしゃ}呪術者が精霊と対話する時に身につけていたのではないかと考えられています。

縄文時代の祭祀

^{どくう}土偶は、女性の姿に似せて作られた、自然の中の神の姿を表現したものとも考えられます。安産を願ったり、自然の恵みを祈って作られたようです。自然を

^{うやま}敬意、恵みに感謝する「マツリ」がムラをあげて行われ、^{じんめんどき}人面土器のように赤い色がぬられた特別な^{うつわ}器も使われました。



どくう 土偶
さんきよ 山居遺跡（西川町）
じんめんどき 人面土器
みや まえ 宮の前遺跡（村山市）